

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

進捗状況(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立有明中学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上では、校内研テーマ「主体的な教育活動の在り方」に伴い、授業方法の改善に取り組んできた。生徒・職員ともに改善の効果を生徒の活動の様子やアンケートの結果から実感している。今後も継続して取り組むことで、子どもたちが充実感や、達成感を味わい、深い学びへとつながっていくと考える。 ・心の教育では、いじめの早期発見・早期対応のために体制の充実を図ってきた。また、アンケートの結果から、生徒の学校生活の充実度は高い。反面、不登校の生徒数が多いことから、教育相談との連携を充実させ、個別の支援に継続して取り組んでいく。 ・「志」を育む教育の推進では、アンケートの結果から、学年が上がるにつれて夢を持っている生徒の割合が高くなってきていることから、継続的な取り組みの効果があると考えられる。今後はさらにキャリアパスポートの活用を充実させていく。 ・業務改善・働き方改革では、研修会や業務の振り回りを継続して行ったことで、時間外勤務時間の削減につながった。アンケートの結果では83%の職員がその効果を実感している。しかし、改善の余地はまだあり、今後も継続して取り組んでいく。 		
2 学校教育目標	志をもち、自ら学び、共に高め合い、逞しく生き抜く生徒の育成		
3 本年度の重点目標	1 「志」を育む教育の推進 2 「主体的、対話的で深い学びの実現」を目指した学力向上の推進 3 集団の中で思いやりの心を育み、自己肯定感を高める心の教育の充実 4 生徒指導と生徒活動を両輪とした活気ある学校づくり 5 特別支援教育と教育相談の充実による安全・安心で居場所のある学校づくり 6 学校・家庭・地域・小学校との連携を大切に「地域とともにある学校づくり」 7 通ってよかった、通わせてよかった、動めてよかったと思う有中の実現		

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を65%以上にする。	・職員研修等で、マイプランの確認と取組の促進を図る。	B	・現時点でマイプランの確認までは至っていないが、全国調査の結果を分析し、県調査に向けて指導法の改善を図っていく予定である。さらに、県調査の結果を受けて、再度見直しを行っていききたい。			学力向上CN(森岡先生・大石先生)
	○「主体的、対話的な深い学び」を通じた学力向上の推進(学校独自重点取組・任意)	○「主体的、対話的な深い学び」に関するアンケートに肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 ○「生徒の主体性を育む」という視点で授業づくりを見直すことができたと答える教員の割合が90%以上となることを目指す。	・教科ごとのアンケートを継続して実施する。 ・校内研究会での活動を中心に、「主体性を育む」ための発問の仕方や活動のさせ方などに関する情報を共有し、日々の授業に生かす。	B	・校内研究会の中で「主体性を育む」ための取り組みについて議論し、部会ごとに取り組みを決めて活動を行った。校内研究会には、「自分の主体性を育てることが必要」、「生徒が考えを言いやすい雰囲気を作ることが大切」などの感想が見られ、教員側の「主体性」に対する意識の高まりが見られた。後期は教科ごとのアンケートの実施を予告し、授業改善にも活かすことができるようにしていきたい。			研究主任(岩永先生)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒の割合を80%以上にする。 ○全ての職員が道徳の授業を実施する。	・学期ごとに道徳の授業に関するアンケート(振り返りシート)を実施する。 ・職員室に道徳コーナーを設置し、授業の充実を図る。 ・学年の教師全員で道徳の授業に取り組む。	B	・職員室に道徳コーナーを設置し、今週の授業では、どの単元をするかの共通認識を行うことができた。道徳コーナーに過去の授業計画を載せたことにより、今までの積み重ねを活かすことができた。 ・担任だけでなく、学年全体で道徳の授業に取り組むことができた。また授業者だけでなく、他の先生方にも入ってもらうことにより、子ども達の取り組みや考えを共有することができた。 ・12月に道徳に関するアンケートを行う。			道徳教育(蓮田先生)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「自分の困りごとや悩みなどについて、相談できる先生がいる。」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ○授業づくりや学級づくりに関して「支持的風土の醸成に力を尽くしている」と答える教員の割合が100%となる。	・学校生活アンケートを定期的にを行い、学年、学校で情報共有をすることで、複数の職員で多面的、多角的に生徒の支援をする。 ・問題を一人で抱えることがないように、集会や教育相談の際に、相談をすることについての啓発を行う。 ・1事案、複数名対応、他学年からの応援を積極的に実施する。	B	・各月に学校生活アンケートを実施し、情報共有と聞き取り、事案の対応までをスムーズに行うことができた。 ・集会の生徒指導からの話の際に、相談に対する啓発を行った。 ・事案に対しては、学年の生徒指導を中心に、情報共有をし、聞き取りや指導についても、複数名体制を行った。 ・他学年の事案に対しても、学年を超えた対応ができた。			生徒指導主事(松尾英先生)
●健康・体づくり	○生徒指導と生徒活動を両輪とした活気ある学校づくり	○「学校生活が楽しく充実している」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を90%以上にする ○学校行事や学級活動で「主体的に取り組んでいる」という問いに、そう思うと答える生徒の割合を80%以上とする。	・生徒に出番と役割を与え、それを承認する「開発的生徒指導」の充実をさせる ・生徒の自治意識を高め、主体的によりよい学校づくりに参画するための生徒活動の充実をさせる	B	・校内研修で、生徒会、生徒活動の見直し、充実を行い、生徒会での取り組みや係活動に生徒が主体的に活動できる場の設定を行った。 ・生徒の意見を聞く場を設け、学校内での主体的な自治意識の啓発を行った。 ・行事では、実行委員会を希望者が行う事で主体的に活動する場の設定を行った。			生徒指導主事(松尾英先生) 生徒会担当(古賀先生)
	●「望ましい生活習慣の形成」生徒が生活習慣の大切さを知り、それが自分自身の将来につながることを理解して生活習慣を正そうとする気持ちを持たせる	○前年度との比較「就寝時間11時以降48%」「起床時間7時以降12%」「朝ごはん食べない10%」「テレビゲーム視聴時間平日3時間以上26%」「今の状態元気以外の回答41%」が改善できるようにする。	・集団の保健指導、個別の保健指導を取り入れ、生活習慣の改善で得られるものについて考えさせる。 ・保健体育の授業で体の成長と生活習慣が繋がっていることをしっかりと教える。 ・食育の授業を取り入れ食の大切さについて考える時間を持つ。	B	・夏休み前に生活習慣のアンケートを実施したところ、就寝時間や起床時間についてはまだ改善が見られなかった。しかし、テレビゲームなどの視聴時間については平日3時間以上26%が22%と少し改善が見られた。また、生徒の今の状態については「元気」と答えた生徒が59%から69%へと多くなっていった。 ・生活習慣アンケートの結果を保健だよりで知らせた。また、10月の生徒集会で、ゲームなどの体への影響について各学年の係委員会から話をする機会を作った。			保健室(伊東先生) (高森先生)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○メンタルヘルス不全の職員を出さない。	・日々の業務内容の見直しを行い、業務改善を図る。業務改善のための話し合いの場を設定する。 ・アンケートや出欠確認票等では、ICTを積極的に活用し、業務の改善を図る。また、アンケートの結果から、次年度に向け取組の見直しを行う。	B	・毎月の業務記録から、業務内容の見直し等を行い、業務改善を図る。時間外業務時間については、今年度は前年度より減少してはいるものの、引き続き改善に取り組む必要がある。 ・ICTを活用して、業務改善に取り組んでいる。今後も継続して行う。			教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
○	○3年間を見通したキャリア教育の充実	○将来の夢や目標をもっている生徒の割合を85%以上にする。 ○授業づくりや学級づくりの中で、キャリア教育を充実させていると答えている教員を90%以上にする。	・キャリア教育を充実させることによって、生徒が主体的に「自らの生き方」を考え進路決定できるようにする。 ・系統的なキャリア教育の立案とキャリアパスポートを活用したキャリア教育の実施。	B	・各学年の実態に合わせて、学校行事や学年行事、体験活動等でキャリアパスポートに取り組むことができた。 ・3年間を見通したキャリア教育の計画は立案中である。また、体験活動や講演、講話の前後でキャリア教育の視点を取り入れた授業を実施するようにしている。			
○	○生徒一人一人の特性や個性に応じた共通理解と組織的な支援 ○外部機関との連携を図った組織的な対応	○「学校生活が楽しく充実している」と感じる生徒の割合を80%以上にする。 ○生徒一人一人の特性に応じた指導の工夫改善に努めている教員を90%以上にする。	・週1回教育相談部会を行い、生徒の情報交換と支援の手立てを話し合い、職員へ提案する。 ・月に1回は、特別支援学級所属の生徒についての情報交換及び支援の方法を確認し、共通理解のもと学習支援を行う。	A	・定期的に教育相談部会及び、特別支援担当部会をもつことにより、各学年の情報共有と支援体制づくりができるようにした。 ・今後は、適宜、担当職員へ伝達し、早めの対応ができるようにする。			特別支援教育CN(小森先生) 教育相談担当(永原先生)
○	○「地域貢献」「学校支援」「小中連携」「小小連携」の推進体制の構築	○地域・小学校・家庭との交流・奉仕活動等を通して、「充実した」、「学ぶことがあった」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ○学校より、学校HP、フェイスブックなどで、学校の様子が分かると答えている保護者を80%以上にする。	・総合学習において、地域の有識者の方を招くなどして、地域連携の構築を図る。 ・地域の活動や小学校の行事に参加したり、ボランティア活動に取り組んだりしていく中で、「地域貢献」「小中連携」等の構築を図る。	B	・2年生ではキャリア教育の一環で「職業人に学ぶ」の一環で地域の方を招いて、職業講話をしていただいた。 ・今年度は今のところ具体的な活動はしていない。今後地域清掃等生徒会を中心に実施予定。			教頭 各学年主任 生徒会担当(岩永先生)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望			
----------------	--	--	--